

# 江木高遠 高戸高遠 高戸賞士

えぎ・たかとお たかと・たかとお たかと・しょうじ

## 明治初期の外交官

### 経歴

生: 嘉永2年(1849年)12月22日、福山生まれ

没: 明治13年(1880年)6月6日、享年32歳、谷中霊園に葬る

安政3年(1856年)	7歳	藩校誠之館に入学、兄健吉とともに学業に励む
—	—	高戸氏へ養子で入る
—	—	寺地強平(舟里)に洋学を学ぶ
明治元年(1868年)	19歳	兄健吉とともに長崎においてフルベッキに洋学を学ぶ
明治2年(1869年)春	20歳	福山藩の貢進生として開成校(のちの東大)に学ぶ
明治3年(1870年)8月	21歳	華頂宮親王の随従としてアメリカへ留学のため横浜を出発
明治6年(1873年)8月	24歳	アメリカ留学より帰朝
明治7年(1874年)	25歳	再度アメリカへ留学、ニューヨークのコロンビア大学で法学と政治学を学ぶ
明治9年(1876年)7月	27歳	コロンビア法律学校を次席で卒業
明治9年(1876年)秋	27歳	帰国
—	—	高戸家より江木家に戻り家督を継承
明治10年(1877年)1月	28歳	東京英語学校教諭
明治10年(1877年)10月	28歳	東京大学予備門の英語教諭
明治11年(1878年)12月	29歳	元老院准奏任御用掛
明治12年(1879年)4月	30歳	元老院権大書記官
明治13年(1880年)1月	31歳	外務一等書記官
明治13年(1880年)3月	31歳	ワシントン公使館員

### 生い立ちと学業、業績

父江木鰐水、母江木年(江木敏)の四男として、嘉永2年(1849年)12月22日、福山に生まれる。初名賞士、通称賞一郎、号は鯨峰。

安政3年(1856年)藩校福山誠之館に入学。兄健吉とともに、学業大いに進んだ。また寺地強平(舟里)について洋学を学んだ。

またこの頃、高戸氏の養子となり高戸高遠(高戸賞士)と名乗る。

明治元年秋、長崎に行き、兄健吉とともに、フルベッキにつき洋学を学習して新時代にそなえたが、翌明治2年(1869年)春、藩より東京遊学を命ぜられ、大学南校寄宿生となった。

当時大学では、はじめての海外留学生派遣の計画があり、これと並行して皇室・華族においても、それぞれ子弟を海外に留学させることとなった。その隋員選考の結果、高遠は、皇弟華頂宮博経(かちょうのみや・ひろつね)親王の随員に、また従兄五十川基は、南部英麻呂公子の随員として渡米することとなった。親王方6名、南部侯方3名の計9名は、明治3年8月横浜解纜、その後、ニューヨークにある予備校および本校(コロンビア法律学校)において勉学を続け、高遠、基ともにきわめて優秀な成績であった。しかし、五十川基の方は、学業半ばにして病気のため、明治5年帰朝、翌6年(1873年)2月、東京の寓居に没した。

また賞士の方も、その主華頂宮の病気のため、明治6年8月、相伴って帰朝した。学業挫折を惜しんだ高遠は、明治7年ふたたび渡米して復学し、明治9年7月、コロンビア法律学校を次席で卒業し、外務書記官に任用された。

#### 江木家

また家系上では高戸家より江木家に帰り、兄健吉の後を継いだ。明治13年(1880年)春、吉田清成駐米大使に随行して米国に赴いたが、同年6月6日、ニューヨーク市において客死、32歳であった。

その墓は、東京谷中天王寺墓苑に、父鰐水のそれとならんで立っており、「外務一等書記官正六位江木高遠墓」と刻されている。その後の江木家については、「江木塔の写真師たち」に詳しい。

同窓会が所蔵する高遠に関する所蔵品は、昭和30年代に江木家から寄贈されたものである。

#### 誠之館所蔵品

管理No.	氏名	名称	制作／発行	日付
00053	江木高遠 書	洋客箴言「愛汝敵」	—	—
00162	高戸賞士 書	「寄五葉松祝」	—	—
00228	江木高遠 書	箴言一則「行百里者」	—	—
00107	佐倉孫三 書	書「奉壽江木鰐水翁七十」	—	明治12年
00055	三島中洲 書	七言律詩「旭章映海」	—	明治13年

04708	大塚孝明 著 石黒敬章	『明治の若き群像 森有礼旧蔵アルバム』	平凡社	平成18年
04763	塩崎智 著	『語学研究(第114号)、「<研究ノート>幕末維新在ブルックリン(NY州)日本人留学生関連資料集成及び考察(1)」』 121頁	拓殖大学言語文化研究所	平成19年
04833	塩崎智 著	『語学研究(第116号)、「<研究ノート>幕末維新在ブルックリン(NY州)日本人留学生関連資料集成及び考察(2)」』 123頁	拓殖大学言語文化研究所	平成19年
04850	塩崎智 著	『語学研究(第117号)、「<研究ノート>幕末維新在ブルックリン(NY州)日本人留学生関連資料集成及び考察(3)」』 33頁	拓殖大学言語文化研究所	平成20年

情報提供:園尾裕氏(江木高遠の号について)

出典1:『菅茶山顕彰会会報(第14号)』、18・19頁、菅茶山先生遺芳顕彰会編刊、2004年3月1日

出典2:『明治の若き群像 森有礼旧蔵アルバム』、98頁、大塚孝明・石黒敬章著、平凡社刊、2006年5月22日

出典3:『誠之館記念館所蔵品図録』、67頁、福山誠之館同窓会編刊、平成5年5月23日

関連情報1:『誠之館百三十年史(上巻)』、218頁、福山誠之館同窓会編刊、昭和63年12月1日

2005年3月24日更新:所蔵品、出典●2006年2月24日更新:所蔵品・関連情報●2006年6月16日更新:タイトル・所蔵品●2006年7月18日更新:写真●2006年9月28日更新:所蔵品●2007年2月14日更新:所蔵品●2007年5月1日更新:氏名・所蔵品・関連情報●2008年1月22日更新:経歴・本文●2009年8月7日更新:誠之館所蔵品●2009年9月17日更新:経歴・誠之館所蔵品●2013年10月1日更新:本文・情報提供●2015年8月6日更新:本文●2015年10月6日更新:誠之館所蔵品●